

学習塾こそ働き方改革の担い手に

—反転授業、アクティブラーニングで労働生産性向上を—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：林さんのこの連載も、先月号で150回を超え、今回で151回目を迎えました。この連載のきっかけは何だったのですか。

A：月刊私塾界主催の「米国チャータースクール視察団」に参加させていただいた折、主催者である当時の山田雄二・私塾界社長から「林さんは、かなりあちこちに勉強に出かけているのだから、その勉強の成果を、学習塾業界の発展のために、連載記事として発表してくれないか」とのご依頼があったため、「それは名誉なこと」と快諾させていただきました。

Q：林さんが考える、現代日本の一番の課題は何ですか。

A：グローバル社会で戦える企業づくり、「国際競争力のある組織構築」に尽きます。

Q：その理由は何ですか。

A：次の3つです。

- ①デフレ下の超客数減による、際限のない「売り上げ減」、
- ②超少子高齢化による「超人手不足」、
- ③「働き方改革」による「人件費比率の急激な上昇」。

Q：その対策は何ですか。

A：「イノベーション」と「標準化」による、「個人」と「組織」の「労働生産性向上」と考えます。

Q：「労働生産性向上」と「働き方改革」は、どう結びつくのですか。

A：個人と組織を挙げての「労働生産性向上」がなければ、「同一労働・同一賃金」を大前提とする「働き方改革」は実行不可能だからです。

Q：日本中の学習塾も人口減、塾生減、売り上げ減に直撃されています。学習塾における「働き方改革」の前提となる「労働生産性向上」の「要諦」は何ですか。

A：塾生の「自覚を促すこと」と、「主体的に学ぶ力」の養成の2つと考えます。具体的には、「人生における学ぶ目的」を自分の力で考えさせ、「自覚を促し」、そのうえで、「学び方を学ぶ力」を、すべての塾生に身に着けさせること。「ハードな長時間自己学習」を歓びをもって、主体的に行う塾生を育成すること。これが、「学習塾での労働生産性向上」、「学習塾での働き方改革」に直結します。「授業中に何から何まで事細かに説明し、丸暗記で叩き込むまで直接指導」では、学習塾で

の指導時間はいくらあっても不足し、学習塾での「働き方改革」「労働生産性向上」とはほど遠いといえます。

Q：学習塾における労働生産性向上は、反転授業、アクティブラーニングですか。

A：その通りです。与えられた課題解決の議論を中心とするアクティブラーニングの授業の前には、議論の前提となる基礎知識や基本的な情報を自分の力で収集し、よく理解し、分析し、必要なことは「定着」させて、論点を整理し、自分なりの考えをまとめ、想定問答集を作り、反論まで考えて、自分のことばでわかりやすく説明できるまでにして、毎回の授業に臨まなければなりません。授業中は、必要なことはノートを取り、授業終了後は、ノートにその日の議論をまとめ、不足する知識を補うために再度学習し、その成果をノートにまとめることも求められます。

Q：学習の仕方を身に着けていないと、「反転授業」や「アクティブラーニング」は成り立たないのですね。

A：その通りです。

- (1) 「予習する力（予習力）」が一番です。「予習する力」の中には、「テキスト」を「理解する力」も入ります。「意味のわからないことば」があったら、「気持ちが悪い」と思い、「辞書で調べる」のも、大切な「予習力」です。「辞書」で調べたことはノートに書き写し、その場で、意味や、書き方を覚えることも、大切な「予習力」です。
- (2) よく理解できた内容は、きちんと身に着け、「定着」させてから授業に出ることも「予習力」。与えられた課題を考え、議論すべき論点を整理し、自分なりの考えをまとめるとともに、何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むことも、「予習力」です。
- (3) 授業後に、自分の力で、「ノート整理」や「復習」、「音読練習」や「書き取り練習」などをして「定着」を図り、「確認テスト」や「定期試験」のための勉強をすることも、反転授業やアクティブラーニングには欠かせません。

Q：林さんの考えは、塾生全員の「主体的に学ぶ力」、つまり、「自己学習能力」の育成を図ることで、学習塾全体の「労働生産性を向上」させるということですか。

A：その通りです。学習塾こそ「反転授業」や「アクティブラーニング」に真正面から挑戦し、塾生の「主体的に学ぶ力」、「自己学習能力」を育成することで、「労働生産性を向上」させ、「働き方改革」の先頭に立つべきです。

Q：学習塾にとっての「働き方改革」は、どこからスタートしたらよいでしょうか。

- A：(1) まずは「健康経営」です。年に1回の「定期健康診断」を全スタッフが受診。経営幹部は「人間ドッグ」。経営者は、自分の費用で「ペット」「脳ドッグ」フルコースの「人間ドッグ」。「歯科定期健診」も毎年実施。病気を発見したら、即、治療開始。インフルエンザ、带状疱疹の予防接種補助。持病のある人も勤務できる職場環境の整備。
- (2) 次に、「夜間の超過勤務、絶対禁止」です。勤務時間外の「補習」は絶対禁止。勤務時間前、勤務時間後、休日の「補習」は絶対禁止。「補習」は、原則、授業で使用していない机・椅子を活用しての「自己学習」とする。

- (3) 「教材作成」「テスト問題作成」「報告書作成」等の自宅でも可能な仕事は、「テレワーク（自宅勤務）」導入を。
- (4) 勤務地域を限定、転勤のない「地域限定社員」は、学習塾で最もやりやすい「働き方改革」です。
- (5) 働き方改革の中心である「同一労働・同一賃金」は、校長（室長）、副校長、講師、事務スタッフの業務・職務範囲を明確に決定し、徹底すれば、可能と考えます。
- (6) 「働き方改革」で課題となっている国籍、年齢、学歴などに関係なく活躍できるのが、学習塾の大きな特色です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今年も、5月最終週の日曜日5月27日に、栃木県足利市のJR足利駅南口にある白鷗白鳳足利高校で、午前10時30分から午後5時まで、開倫塾主催「第13回全国模擬授業大会」が開催されます。授業の導入部の教え方をベンチマークし、日本一を決定する大会です。「チョーク1本で、教育改革を」が合言葉です。大会前日の5月26日（土）には、足利市研修センターで午後2時から歓迎クラシックコンサート、3時から5時までプレイベントとして「全国個別指導模擬授業大会」と「全国日本語指導模擬授業大会」を同時並行して開催いたします。6時から、ココファームワイナリーで歓迎交流会を開催いたします。お一人でも参加できます。是非、お気軽にご参加ください。（問い合わせ先、0284－72－5945 開倫塾、塾長室）

2018年2月2日（金）9時06分